

『強いお父さん』

松阪市立中部中学校 1年 岩崎 黄華

今日は、お父さんの手伝いで、伊勢の知り合いの所に行きました。お父さんは足が不自由で、装具を付けないと歩く事が出来ません。その装具を修理しているので、今日は車椅子に乗っています。そして、最期の荷物を運び終えたら、知り合いの人に「ご苦労様、おおきんな。」と言われ、少し照れくさかったです。僕は、手助けする事は、あたり前だと思いますが、やっぱり、ほめられると、なんだかイイ気分になりました。

早く用事も終わったので、おかげ横丁に行く事にしました。そして、伊勢神宮に着き、係りの人が障害者専用駐車場へと誘導してくれましたが、一般の人が先に車を止めようとしています。いくら近くて楽だからと言って、障害者の事も考えず、自分さえよければいいのでしょうか。係りの人が注意しましたが、文句を言って立ち去って行きました。車椅子の人はドアを全開にしないと、乗り降りが出来ないために、広いスペースが必要なのです。障害者でないと、わからないかもしれませんが、マナーぐらい守ってほしいと思います。こんな人が伊勢神宮をお参りしても、神様は叶えてくれないでしょう。しかたなく別の所に車を止めさせてもらいました。

冬休みには毎年、伊勢神宮へお参りに行きます。僕が、小学五年生の時も、お父さんは車椅子で来ました。砂利にタイヤをとられ、アスファルトの道よりも何倍もの力を入れないと進みません。それに、本殿の前は石段になっています。あきらめて引き返すと思ったら、お父さんは車椅子から降りて、おしりを地面に座る様につけ、一段一段上がって行きました。僕達には、簡単に手伝いをしない事や、何でもトライしてみると言うルールがあります。でも、僕は人の目が気になり、はずかしかったです。だけど同時に、格好悪くても、人目も気にせず、がんばっている姿を見たら、カッコイイと思いました。冬だというのに、汗だくになってお参りした時の事を、思い出しました。神社や寺は、昔ながらの所を大切にしているのか、障害者には少し不便です。誰でも気軽に行けるよう、整備してくれればと願っています。

そして、おみやげ店の通りに入ったら、たくさんの人で混雑しています。お店の中は、人がいっぱい、通路も狭く入る事が出来ません。せめて、車椅子と人が一人、通れるくらいの広さにしてくれたらと思います。それと、人込みの中では、ぶつからないか、タイヤで足を踏まないか、荷物や小さな子の手をタイヤで巻きこまないか心配しながら、進まなくてははいけません。回りの人も、あまり近づかない様にしてもらいたいと思います。

やっとおかげ横丁に着きました。伊勢うどんを食べたり、買い物をして楽しかったです。一つ残念なことがありました。それは、休んでいた時に、車椅子に荷物が当たり、ジャマだと言われました。僕は、駐車場で見た人と同じで、自分勝手な人だと思いました。お父さんが「車椅子で来たらいかんのか。障害者は、あんたより下の立場の間か。」と言うと、文句を言いながら車椅子を、けり続けました。そして、お父さんが相手の人の腕をつかみ上げ「俺は足が悪い障害者やけど、あんたはマナーもわからん、頭の悪い障害者か、違

うやろ。」と言うと、びっくりした顔をして、頭を下げました。もう少し人の事を考える様に言って、相手の人と別れました。注意が出来る勇気はすごいし、ほこりに思いました。僕も身の回りで、いじめや差別が起きたら、しらんぷりせずに立ち向っていきたいです。間違った事を、間違っていると言える、お父さんと同じ様強い勇気を持っていきたいと思ひます。

そして、おみやげの赤福もちを買って、帰り道の車の中で、お父さんと話しをしました。なぜ大きな声で怒ったのかと聞くと、お父さんは、障害者の人達のために、それを回りの人にも、わかってほしかったそうです。障害者の人の中には、人に迷惑をかけるとか、人の目を気にしたりする事もある。だから、消極的になって、閉じこもってしまう人もいと教えられました。お父さんは積極的に外に出て、何でもしようとしてます。けど、苦勞する事も、一人で出来ない事もたくさんあります。ユニバーサルデザインの街づくりや、障害者への助け合い、支え合いの気持ちを、一人一人が持つという事が大事だと思ひます。それと、自分が行きたい学校にいけなかったり、働く所が少なかったりと、まだまだ問題があると聞きました。障害者だから、しかたがないと思わず、みんなの生活に近づけようとする気持ちと、近づこうという気持ちが大切だと思ひます。

そして、家に帰り赤福もちを食べながら、今日の出来事をお母さんに話しました。